

WPP工法の施工手順



1. 鋼管を所定の位置にセットする

- 鋼管の重量 (9.7kg/本)はコンクリート基礎ブロックと比べて約1/6。
- 取り回ししやすいため作業の安全性とスピードは格段にUPします。



2. ガードレール打込み機で鋼管を打設する

- 水準器で垂直を見ながら打設します。
- 掘削・埋め戻し・転圧・土砂処分の各作業は不必要です。
- セットしてから打設完了まではわずか1分弱です。(コンクリート基礎ブロックの約1/20)



3. 鋼管打設完了

- 鋼管周りの現況地盤は全く傷めません。
- 施工占有面積が小さい分、作業性はUPします。



4. プレートを鋼管内に設置する

- 通り芯、垂直、高さを決めてモルタル充填し設置します。
- モルタルの量は従来工法に比べて約1/3です。



5. プレートの設置完了

- 鋼管及びプレートは溶融亜鉛めっき処理しています。
- 12mm厚の鋼材を使用しているため強度・耐久性は十分です。



6. 木製柱をセットしボルト、ピタマルで締結する

- 木製柱地際部の弱点は、このプレートにより克服。これにより木製防護柵の耐久性は大幅にUPします。
- 木製柱の取替時も、鋼管やプレートは取替不要です。
- 基礎部を掘り返す必要もないため短工期かつ工費も縮減します。



7. 木製防護柵の設置完了

- ガードレールの土中打込みと同じく、路肩部の施工もOK。木製防護柵の足元はすっきりとしたものになります。
- 木製防護柵の施工時間を大幅に短縮します。

- ※ WPP工法は木製防護柵だけでなく、木製案内板や木製東屋、木製パーゴラなどの地際対策にも有効です。その場合、鋼管やプレートのサイズをご提案します。設計の際はお問合せ下さい。
- ※ 設計上やむなく基礎ブロックを設置していても、ブロックの中にプレートを設置することでWPP工法での施工に変えることができます。設計の際はお問合せ下さい。